

新建

# ちば

2023/1  
No.287

新建築家技術者集団 千葉支部機関紙

千葉の  
考現学

番外編「名水の里」鳥取県米子市淀江町



「天（あま）の真名井」湧水地



古くからの水車小屋



1日に約2500トンもの豊かな水量



「真名井ばあちゃんのいちごパフェ」

現在私の住んでいる鳥取県米子市淀江町は 環境庁に指定された名水百選のひとつ「天（あま）の真名井」と鳥取県指定の名水「本宮の泉」を持つ、名水の町です。

「天の真名井」とは、古事記・日本書紀において、高天原の「神聖な井戸」を意味し、神聖な水につけられる最高位の敬称なのだそうです。この名水の下流には、弥生時代の遺跡もあり、すでに2,000年もの昔から、人々の生活と耕作の水源として大切にされてきたことを物語っています。

子供のころから当たり前前に親しんできた名水です。しかしこの地を離れるまで「どこの地方にでもある地味な名所のひとつ」、くらいにしか考えていませんでした。

20年の時を経て戻った地元を改めて見返すと、地域の至る所に「古代神話」に通じるスポットがあり、今も古代そのままの神聖な場所としてその姿を保っていることに驚かされます。（文・写真：大内 圭）

# ちば

2023年1月号

No.287



**\* 目次 \***

- ・目次・企画予定表 2
- ・集合住宅によるまちづくりと技術開発03 3  
泉 ヒロヨシ
- ・世界まち歩き32・モロッコ大周遊 5  
～アイト・ベン・ハッド 高山 登
- ・事務局だより、支部総会・忘年会報告 8

## 企画予定表

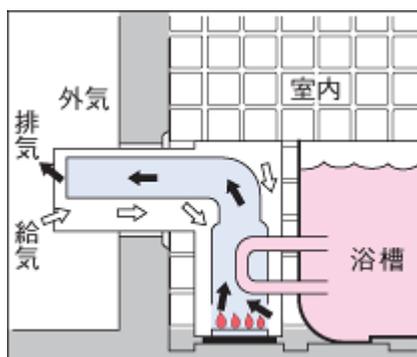
月	支部企画 住まいづくり研究会	その他企画	全国・近県支部 その他企画	その他 支部幹事会
1月	新年会			12(木)20:30~ 支部幹事会+交流会
2月				8(木)20:00~ 支部幹事会+交流会
3月				9(木)20:00~ 支部幹事会+交流会
4月				13(木)18:30~ 支部幹事会+交流会
5月				11(木)18:30~ 支部幹事会+交流会
6月				8(木)18:30~ 支部幹事会+交流会
7月				13(木)18:30~ 支部幹事会+交流会
8月				10(木)18:30~ 支部幹事会+交流会
9月				14(木)18:30~ 支部幹事会+交流会
10月				12(木)18:30~ 支部幹事会+交流会
11月				9(木)18:30~ 支部幹事会+交流会
12月	総会・忘年会			

## 集合住宅によるまちづくりと技術開発—03

新建千葉支部会員 泉 ヒロヨシ

### ・ 熱供給・地域暖房方式

層状になって住むことになると、火気の利用は制限されてくる。数十年前に中国の集合住宅の改善に技術協力したことがあったが、最初に取り上げたのが、炊事場の火気環境、換気の改善だった。公団では当初からガスによる火力の供給を行ってきたが、ガスを燃やすことから、酸素の供給と排ガスの排気の為に換気扇を開発し、そして大量の給湯を可能としたのが、ガス釜、BF釜の開発だった。東京ガスと共同開発したBF釜はコンパクトで、浴室でも外壁に寄せたガス湯沸かし器の、給・排気管を壁に貫通させて、外気と流通させてガスを燃焼させて給湯した。



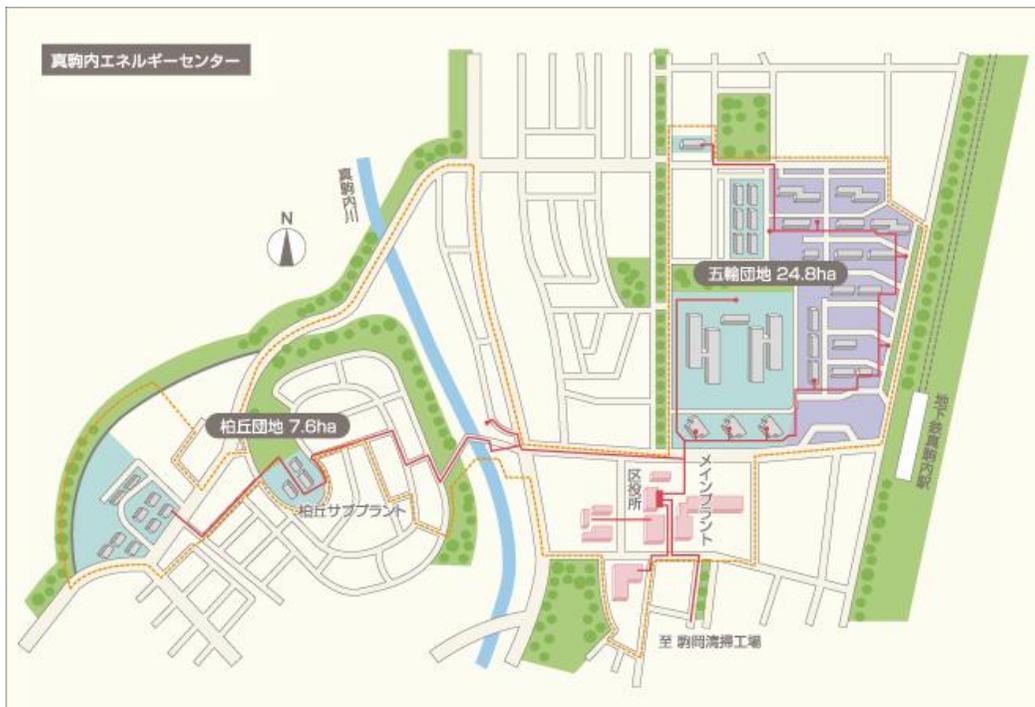
外気を取り込み、ガスを燃焼し、水を沸かして循環させ、排気はそのまま放出する

さらに給湯機能は住戸から住棟へ、更には地域の給湯暖房へと大規模化し発展していった。住棟規模の代表は、神戸の芦屋浜コンペでASTEM共同体提案で採用されている。



芦屋浜コンペ作品 (ASTEM 共同企業体; 新日鉄、竹中工務店、高砂熱学、松下電工)

都市的に面的に広がると、札幌の真駒内団地には、札幌オリンピック選手村建設に併せて給湯暖房システムが開発された。五輪団地には住宅都市整備公団時代に建設されている。



ここでのエネルギー源は清掃工場のゴミの燃焼によっている

また札幌駅前の業務地区も地域暖房システムを敷いているが、道路面下に配管した暖房配管は熱ロスが大きく、なかなか普及しにくいようだ。

次に、熱供給に関連して、太陽熱給湯を団地住戸に取り入れている事例を見てみたい。山梨県は年間日照時間が日本一長い。そこで公営住宅で太陽熱供給を始めている。198



山梨県「石和団地」の太陽熱給湯パネル

1年(昭和56年)に笛吹市の「石和団地」のベランダに取り付けた。熱効率から言えば、屋上が一番効率がいいが、屋上から各住戸が利用すると個別の配管や利用メーターが必要となってくる。各住戸の利用状況が分かりやすいようにベランダに取り付けた。現在では太陽熱利用は発電に変わっているが、いずれにしろエネルギーの蓄積技術が進んで、蓄熱、蓄電装置の開発が待たれる。

## IV] フェズから世界遺産「アイト・ベン・ハッドウ」へ

### イフレン

前回ご紹介した世界遺産フェズから南へ約 60 km行くと、西にそびえるアトラス山脈の中腹にイフレンという町がある。街並みはモロッコでは珍しい切妻屋根で、街路樹があり赤い屋根の家並みである。およそモロッコとは思えないヨーロッパ風の高級感のある美しい街並み景観をなしている。

写真①イフレンの街並み



おしゃれなカフェや豪華なホテルなどもあり高級リゾート感もただよう。なんとモロッコ唯一の市立大学もあるという。標高は 1650m、フランス領だった頃に高原の避暑地として建設され、モロッコがフランス領から独立後は国王をはじめ政府要人や富豪達の別荘地となった。モロッコのスイスといわれる街で、近くにはスキー場もあり、冬には王様がスキーをしに来るといふ。

### サハラ砂漠観光の起点エルフード

モロッコの国土は北北東から西南西へと山脈が連なり（4000m 級含む）、その山麓は高原の大森林地帯から、南下するにしたがい草原や穀倉地帯となる。更に南下するとほとんど草木も見えない荒涼とした丘陵地帯へと続く。エルフードというオアシスの町を最後に、そこから南はあの世界最大のサハラ砂漠である。

写真②サハラ砂漠の日の出ツアー（左奥が筆者）



壮大なスケールのサハラ砂漠の日の出を拝むために、エルフードから 4WD に乗り換えてメルズーガという地にあるオーベルジュに 1 泊した。その後は次の目的地である世界遺産「アイト・ベン・ハッドウ」を目指してカスバ街道といわれる道路を西に向かったのである。

## オアシス

広大なスケールの赤茶けた丘陵の谷間には、ナツメヤシ畑のある集落が次々と点在する。大きな町でヤシの木が美しいティネリールというオアシス都市がある。青空と台地、緑のコントラストは、まるで異次元の世界の美しさで、この地方の観光の醍醐味。

アトラス山脈の雪解け水が地下水となり、このようなナツメヤシ畑やオアシスの町を形成しているものと思われる。

写真③ナツメヤシ畑のある集落。今でも日干し煉瓦



## カスバ街道

街道筋にある建物はカスバ様式という屋根に猫の耳のような飾りが特徴の建物が見えてくる。カスバとは要塞とか砦という意味。写真④の建物はまさに砦、20世紀初頭パシャ（太守）の住居として使われていたとのこと。この飾りは注意してみると、現代のどの建物でも引き継がれ、この建物が連なる道路はカスバ街道と呼ばれている。

なぜこのような飾りがあるのか。古くからこの地方に伝わるものでそのシンボルか、沖縄のシーサーのように守り神か不詳。

写真④カスバ様式の建物



## 日干しレンガ工法の家

この工法で建設中の家を見ることができた。工法は①まず日干し煉瓦で壁を造る ②太い丸太材を横に1木渡す ③それに細い丸太材を4～5本架ける ④すの子状の細竹のようなもので葺く ⑤その上に泥を被せ、間にビニールシートを挟んで更に泥を乗せる これで暑さに強い合理的な家の完成。

写真⑤建設中の日干しレンガの家



## 世界遺産 クサル「アイト・ベン・ハッドウ」

車で雪景色のアトラス山脈を北西に見ながら更に西に進むと、峠からいきなりあの世界遺産の城塞都市「アイト・ベン・ハッドウ」が前方に見えてきた。旅行前に写真で見ただけでも感動したあの景観が、この目でみる現実は一層圧巻であった。

モロッコで最も美しい村といわれるアイト・ベン・ハッドウは、日干しレンガ造りの古いクサル（城を意味するアラビア語）。村は川のほとりの丘の斜面を利用して立体的に造られている。丘の背面は断崖で、自然の地形を巧みに利用した難攻不落の要塞を思わせる。「アラビアのロレンス」、「ナイルの宝石」など映画のロケ地としても有名。乱立する塔はティグレムトと呼ばれる見張りを兼ねた穀物庫。かつては 2000 人の村民がいたというが現在は 5～6 家族が住むのみで、大半は対岸の新しい村に移住していた。

写真⑥峠から見るアイト・ベン・ハッドウ全景



写真⑦入口は正面奥の小さな門の一ヶ所のみ



城塞内の路地



### ○2022 支部総会、忘年会報告

昨年12月10日アトリエ結にて三年ぶりに集まり開催しました。総会に先立ち佐藤美弥氏から「創宇社建築会100周年を迎えるにあたり」の報告がありました。支部を含め全国でも100周年の企画が組まれます。昨年後半の活動は停滞気味でしたが活性化の機会になればと思います。参加者は7人と少なかったですが、はるばる館山から金澤さんも参加してくれて、久しぶりにリアルで集まる事が出来、楽しい交流が出来ました。今年も支部活動へのご協力、よろしくお願いたします。



### ○支部幹事会＋交流会

毎月第2木曜日定例で行います。どなたでも参加できます。直前に支部会員MLにZOOM会議招待のURLを送ります。クリックして参加してください。

### ○WEB ちば塾

幹事の持ち回りで原則隔月第1金曜日に開催することとしています。幹事会にて検討中。

### ○千葉建築・街並探訪

年2回程度(候補地：東金、市川、行徳、三里塚など)→コロナ後再開します。

以上お問い合わせは事務局まで。

## 事務局だより

「ラゲリより愛をこめて」あまりに悲しい話なので気が進まなかったのですが見てきました。子供のころの厚生さんも実名で登場します。ずっと悲惨なのですが、最後に帰還した人たちが夫々山本家にやってきて遺言を話していく場面は涙が出ました。将校は悪者に描かれていましたが、父のことを思い出しました。私の父は南支北支ニューギニアと転戦し、奇跡的に生きて帰ってきました。9割は死んだそうです。最後は将校だったのですが、国賊と罵られながら上からの命令に逆らって転戦しませんでした。命令に従った部隊は玉砕したそうです。当時の部下からは命を助けてもらったと感謝されて戦後も付き合いが継続していました。(加瀬澤)

新建千葉支部事務局：株式会社 ゆま空間設計

TEL:043-253-8801 FAX:043-253-8806

千葉市若葉区みつわ台5-4-14

E-mail: office@yumaku-kan.co.jp

新建千葉支部ホームページ : <http://www5e.biglobe.ne.jp/~shinken/chiba/>

発行：千葉支部幹事会  
編集：千葉支部幹事会  
編集ワーク：中安博司

編集後記：仕事をしながらの新建活動はしんどい部分もありますが、仕事を含め刺激をもらえることもあり続けて行けるのではと思います。皆さんもお忙しいでしょうが活動に参加していただくと活動が盛り上がるのではと思う今日この頃です。(中安)